

論文タイトル : Prevalence and characteristics of misreporting of energy intake in Japanese adults: the 2012 National Health and Nutrition Survey

論文著者 : Murakami K. 他

論文掲載誌 : Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition 27:441-450

日本人成人におけるエネルギー摂取量の申告誤差の頻度と特徴

食事調査において、摂取量の申告誤差の問題は重要です。そのため、申告誤差に影響を与える要因を明らかにすることが必要です。この研究は、日本人成人におけるエネルギー摂取量の過小・過大申告がどの程度発生し、またそれらの申告誤差がどのような人で起こりやすいかを評価することを目的とした研究です。

研究の対象者は、2012年の国民健康・栄養調査に参加した20歳以上の男女19,986名（男性：8,878名、女性：11,108名）です。1日間の食事記録からエネルギー摂取量（EI）を算出し、基礎代謝量と推定エネルギー必要量と比較することで、それぞれの対象者のエネルギー摂取量の申告誤差を評価しました。

どの評価方法でも、ほとんどの対象者（92.8%以上）のエネルギー摂取量の申告は妥当であると評価され、過小申告者は6.3%以下、過大申告者は2.0%以下でした。

過小申告が みられた人の特徴	◆若年成人 ◆過体重もしくは肥満の者（BMIが25以上の者） ◆現在喫煙している者 ◆飲酒習慣のない者 ◆単身者
過大申告が みられた人の特徴	◆女性 ◆標準体重の者（BMIが18.5以上25未満の者） ◆単身者

日本人は、諸外国の報告と比較し、過小および過大申告をするものは少ない傾向であり、ほとんどの人の申告したエネルギー摂取量は妥当でしたが、上記に示すような特徴をもつ集団を対象に調査をする場合は、過小申告や過大申告に注意する必要があるようです。